JLTANE - Abstract

Title: 継承語として日本語/国語を学ぶ子供達：変わるべき漢字学習の軸

補習授業校で勉強する日本語を継承語とする子供達は、国語で新出漢字と読みが増える3～4年生に壁があると言われており、そのころから補習授業校の勉強が難しくなり学校を辞める子供が出てくる。漢字をその主要因と捉え、継承語として日本語を学ぶ子供達が、どのように英語環境で漢字の感覚を身に付けていくかを考え、日本で育ってきた子供達を基準にした教え方からどう変えていくべきか検討したい。

まず第一に、日本の学習指導要領解説にある漢字の目標「漢字を習った学年にはその漢字が読めるようになること、次の年には書いて使えるようになること」を補習校で実践し、漢字の書きよりも先に読みの強化を優先し、書きよりも大切な「読み」に注力する。

第二に、漢字を文章の中で読むための漢字感覚を身に付けさせる。これには、第二言語として日本語を学ぶ学習者と同様、漢字自体の意味に注目したり、漢字の認識力をつけたり、漢字の覚え方を工夫したり、知らない単語の意味を予測し文章の要旨を掴むスキルを身に付けたりする学習が重要である。

第三に、漢字学習を主として担う家庭において、一のような目標をもって、二のような学習方法を保護者が実施していかなければならない。しかし、そこで出てくる問題は、どのように二のような学習が家庭で行えるかであり、保護者に特別な知識やスキルがなくても家庭学習を通して子供の漢字力を向上させられるような教材がなければ成り立たない。

こういった観点から、補習校と家庭学習を結び付けた漢字学習モジュールのサンプルを紹介する。